



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2010年3月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「一つとなる力」
 アジア地域会長 : 「一つとなる力」・「夢見るアジア、愛するアジア」
 西日本区理事 : 「すべてのいのちを大切に」・「いのち・平和・環境」
 中部部長 : 「ワイズの理念を胸に自信を持って活動しよう」
 プラザクラブ会長 : 「仲間と共にワイズを楽しもう」

【EF・JWF=EF・JWFを通してワイズ活動を考えよう。】

3月例会・今後の予定ご案内

【3月第1例会】

日時：3月11日（木）・18：45－
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：中部評議会・講演会の準備

【3月第2例会】

日時：3月25日（木）・18：45－
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：次月例会打ち合わせ
 出席者：役員（鈴木・榎田・高田）
 （義務者）4月担当者（高田・島崎）
 5月担当者（小澤・松永）

【今後の予定】

- 中部評議会・13：00－14：00
- 講演会・14：30－16：30

月日：3月22日（振替休日）
 場所：名古屋中央教会

* プラザのメンバーは会場設営のため、12時までに全員集合願います。

3. 4月第1例会

日時：4月8日（木）・18：45－
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：プラザワイズデー

4. 4月第2例会

日時：4月22日（木）・18：45－
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：次月例会打ち合わせ

第13回西日本区大会

日時：2010年6月12日（土）～13日（日）
 場所：広島国際会議場（大会会場）

◆インターネットをご利用の方は、上記西日本区中部ホームページの「名古屋プラザクラブ」を閲覧ください。

2月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
直前会長	大島 孝三郎	○	○		○
	小澤 幸男	○			○
書記	榎田 守隆	○	○		○
	後藤 猛	○	○		○
	島崎 正剛	○	○		○
会長	鈴木 誉三	○	○	○	○
会計	高田 廣	○	○		○
	松永 裕子				
連絡主事	万福寺 昭美	○			○
M=メキヤップ	1. 名古屋クラブ第1例会				
出席率合計・(算定合計/会員数)%					88.9
1. ニコボックス (円)		5460			9460
2. オークション・切手		0			0
ファンド・当月合計/累計		5460			9460
ブリテンの寄稿順序は次の通りです。					
4月号・後藤 5月号・万福寺 6月号・松永 7月号・小澤 8月号・鈴木 9月号・島崎 10月号・高田 11月号・大島 (400字詰原稿用紙4-5枚程度)					
* Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp					

2月第1例会報告

日時：2月10日（水）・17:30-21:00

場所：名古屋YMCA会議室・勝美屋

1. 中部評議会について・大島

(1) 同時開催のイベント

一般の方も入場できる森本監事の「マザー・テレサの生涯」をテーマにした講演会を行う。講師の森本氏および会場の名古屋中央教会との折衝は大島さんをお願いします。

2. 部報作成作業・島崎

2月13日（土）午後4時よりYMCA会議室で行う。

3. プラザブリテン配布部数削減案・鈴木

名古屋地区各クラブに配布する部数削減案を2月5日の会長連絡会に提案した結果、4月の連絡会で各クラブが必要部数を連絡する。

4. お年玉年賀はがき当せん切手収集・高田

忘れた方もいるので最終枚数（金額）は次月第1例会とする。なお、ゲストの小澤安代さんより切手を頂戴いたしました。ありがとうございます。

5. 反省会

部報作成作業

日時：2月13日（土）・16:00-19:00

場所：名古屋YMCA会議室

出席：大島・後藤・島崎・鈴木・櫛田（記）

1. 部報コピー・綴じ込み作業

145部作成、中部会長宛てに発送する。

2. 講演会開催の通知・大島

(1) 島崎さんがクラブ会長に郵送する「評議会ご案内」に同封するため、講演会チラシおよび会長宛通知文を櫛田が作成、大島さんが校正のうえ21日までに島崎さんにメールする。

(2) 中日新聞の後援および取材依頼は、大島さんから小澤さんを通じて社会部の池田さんをお願いします。

(3) 講演会の設営その他作業は、YMCAのみなさんにもお願いしたい。

2月第2例会報告

日時：2月25日（木）・18:45-20:15

場所：名古屋YMCA会議室

1. 評議会・講演会のスケジュール確認・大島

種々問題討議する。

2. 中日新聞の後援・取材依頼・大島

今日現在未回答。

3. リーフレット作成・櫛田

3月第1例会に持参する。



(反省会・・・?)



(部報作成作業を終えたキャビネットの面々、さて次は?)

名古屋クラブ2月例会に参加して

名古屋クラブ深谷会長より2月の卓話例会へのお誘いがあり、大島さんと2人で参加。ゲストを含め30名を超えるTOF例会は、9名前後のプラザの例会に慣れている私には、にぎやかに見え仲間が多いクラブはやはり活気が違うなと感じられました。

卓話は日本国際飢餓対策機構愛知事務所の清家弘久さんから、世界の飢餓の状況、現在の飢餓人口は世界人口68億の中で10億を突破し、約6人に1人が根本的な人間に必要な食料を得ることが出来ず苦しんでいる、1年間で約1千万人の人達が飢えのために生命を失っている、また33億の人達は1日2ドル以内で生活している厳しい現実を知っていただきたい、食料輸入国である日本は、輸出国で異常気象による穀物等の極端な不作がおこれば、世界的な食料飢饉に巻き込まれる可能性がある等、飢餓に苦しむ子供たちの写真を写しながら熱心に話していただきました。

TOFに合った卓話から厳しい現実を知る事が出来たいい勉強になりました。

(鈴木 誉三)

情報処理のいろいろ

1年ほど前までは、私はまだパソコンを余り使いませんでした。今は中部部長の役目のため多くの情報や伝達事項が入ってきて、それを部内の会長(またはメール委員)に伝達することが多くなりました。1-2年前から、西日本区の中で、メーリングリスト活用の制度が始まりました。常任役員グループ(5名)、事業主任グループ(7名)、部長グループ(9名)、その部長のもとに各会長(クラブメール委員、中部では9名)の連絡組織が出来上がっております。その各メール委員が各自クラブメンバーのメーリングリストを用意されているはずで、そこで、メンバーの中で、パソコンを持たないか、持ってもあまり開かない人には、携帯電話のアドレスを登録して補完し、この制度を活用している委員さんもあります。理事・書記・事務局長→部長→会長(メール委員)→メンバーへと各階層を辿らないで直接、理事・書記・事務局長→クラブのメンバーへと伝える方法も理論上は出来るということですが、メンバーのアドレスに変更が生じたときにメンテナンスする負担が事務局長に集中してしまう欠点があります。その為に今のように、階層ごとに下していくのが現実的で適当なことのようです。今のやり方の場合、クラブのメンバーに変更があれば会長がメンテナンスすればよく、会長に変更があれば部長がメンテナンスすればよいということです。今、メンテナンスが一番負担が掛かっているのは、大勢のメンバーを抱える会長さんではないでしょうか。

上記のメンバーリスト活用の制度の他に、ブログの制度が以前提案されたことがあるそうです。各メンバー個人単位で希望し、登録さえされれば、情報発信元の理事などから直接に登録者に情報が届けられることとなります。もちろん理事・書記・事務局長は「ブログ管理者・担当者」を置かなければならないでしょう。以前の提案のときに実行に移されなかったのは、何故だったのでしょうか。今でも不可能なのでしょうか。今なら、事情が変わって出来る条件が揃っているならば実行すればよいと思います。YMCAではブログが実施されているということです。部内だけのローカルな情報ならば区を通す必要はなく、部長以下のメーリングリストの活用でよいことは現状のとおりです。

ブログに近い機能を持つものとして、ホームページがありますが、ホームページは情報を受ける側が何かの情報を見付けに行かなければなりません。ブログは発信元が伝えるべき情報が出たときに、受け手側に届けてくれるといった速達性のある便利

なシステムです。今まで幾つかのブログに加入していたのですが、それがブログという呼び方するのだとは知りませんでした。

私は、まだ「転送」と「添付ファイルとして転送」の使い方が適切に出来るかどうか自信がありません。「エクセル」の表の資料の「印刷ページ設定」や「改ページの設定」も自信がありません。写真の保存、選択、添付、送信も一度に沢山送ると相手に迷惑がかかることがあるので、一番良いやり方はどうすれば良いのか、知りたいと思っています。

ワードのドキュメントの保存、添付、送信あたりのことで自信がありません。ソフトウェアのバージョンの違いからくる整合性の問題かと思っています。ワードの文字入力の際、「半角」「全角」の切り替えで、文字の間隔が不揃いになって見栄えが悪くなります。もっと経験を積んで上達したいと思っています。文書の保存、整理の方法も良い方法があるとは聞いておりますが、体得することがこれからの課題です。

もっともっと、パソコンの扱いに慣れて事務能力を高めたいと思っていますところ。

(大島 孝三郎)

「ピッグスって何ですか？」

朝、散歩から帰ると鶴を折りながらカミさんが「ピッグスってなに」と聞く。「ブタさんたちでしょう」、「いえ、ギリシャが…」、掃除をしながらテレビを聴いていたらしい。「ああ、借金で首が回らなくなった EU 内の国ポルトガル、イタリア、アイルランド、ギリシャ、スペインの頭文字を並べた略語で、1年ほど前からイギリス・アメリカのメディアが使うようになった。当初は馬鹿にした意味で本当の『豚さんたち(PIGS)』だったが、最近はアイルランドの I を加えた書き方(PIIGS)が一般的のよう」、「テレビでは他の国のことは問題にしていなかったよ」欧州連合の財務相理事会のニュースだったらしい。「今一番危ないのがギリシャ、EU 各国の代表が集まった会合でギリシャが出した再建計画を概ね承認した」、「アルゼンチンのように『払えません』と言ったらいいのに」案外知っている。「そうもいれない、民間を含めたギリシャ全体の借金は 254 兆円、その 80%は EU の銀行が貸している、ドイツやフランスはわが身にふりかかってくる。恐ろしいのはほかの 4 カ国の対外債務が売られては世界経済が大混乱する」、「6 年前にオリンピックをしたのに」古代ギリシャ時代は遙か昔の話である。「買い被り、今の国家規模はほぼ日本の 10 分の 1、国内総生産は

EU 全体の 2%に過ぎないし、「日本だって借金大国でしょ」、「そう、日本の借金についてはまたあとで」話広がりそうなので言葉を濁す。「もともと借金国だったの?」、「10 年前、背伸びしてユーロに参加した時からいろいろ問題はあったが、加入してからは為替の変動リスクがなくなったため、金利が割高なギリシャにお金が集まり、政府も赤字を心配しないで予算をばらまいた」、「固定相場制」、「うんそれ、EU の 27 カ国のうち 16 カ国が、欧州中央銀行が発行する通貨のユーロを使っているが、財政政策は各国に任されたまま」、「使い放題使って、危なくなったら仲間が助けてくれる、かもしれない」上手いことをいう。「その通り、去年の 10 月に政権交代した時、国の台所を調べると財政赤字が公表されていた数字より多い、前政権が粉飾していた」、「故意だったの」、「さあ、12 月には米国の格付け会社がギリシャの国債を格下げした。ギリシャの信用が落ちて 16 カ国全体に問題が広がった」、「で、これからどうなるの」、「借金返済計画は、大雑把に言えば公務員の採用凍結と給与削減、年金制度の改革、増税など」、「公務員の・・・そんなに影響するの」、「ギリシャは役人の数がやたらに多くて、人口の 3 分の 1 が公務員といわれる、それといい加減な統計データの整備、年度の財政赤字を GDP に対して 3%以下を目標に、再建計画の実施状況を厳しく監視される」、「大変ねえ、いつから?」、「詳しい計画は来月の中頃までに出す。それと日本は・・・」と言いかけたが、手を休めてテレビの番組を韓国ドラマに変えた。もう興味がなくなったようだ。2 月 5 日付日経新聞は「欧州中央銀行のトリシェ総裁は『国内総生産比に比べたら財政赤字額は(欧州平均では)日米より小さい』と指摘し、ユーロ圏だけが財政悪化に直面しているわけではないと強調」と報じている。因みに対 GDP 比の累積債務残高世界 3 位は 185%のカリブ海の島国セント・クリストファー・ネイビス、2 位は日本 192%、1 位は年間約 2 億 3000 万%のインフレ率のジンバブエ、304%です。(出所 米中央情報局 2009 年) (櫛田 守隆)

聖書に由来する語句・慣用句・諺

【イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。(ヨハネによる福音書 8:12)】

【罪に満ちた薄暗い世の中を歩き、時として周りを見失ってしまう私たちにとって、唯一の指針となる、真実を照らす一条の光である。】

【散歩の途中に寄った喫茶店で「イラクやアフガンで『聖書ライフル』米軍が使用」の見出しに、「イラクやアフガニスタンで米軍が使っているライフル銃の照準器に、聖書の特定の章節を指す符号が記されていることが、米 ABC テレビの調査報道でわかった」との記事があった。銃部品製造会社トリジコン製の照準器に「ヨハネ福音書の第 8 章 12 節」を指す「JN8:12」の文字と数字が、モデル番号の後に刻印されていた。軍内の信仰の自由を訴えてきた団体などから「イラクなどの戦闘はキリスト教布教のために仕掛けた戦争だと思われる」との批判に対し、同社広報担当者は「献身的なキリスト教徒だった創業者が始めたことだ」と米メディアに語った、とある。(1 月 24 日付朝日新聞) トリジコン社は放射性物質のトリチウムを発光させ、暗い場所でも目標に合わせやすい照準器を製造しており、特殊部隊の M4 カービン銃に採用され現在アフガニスタン、イラクで使用している。敬虔なキリスト教徒の創業者が、聖書から引用した聖句に共通する闇や光という言葉で「暗闇でも光る」照準器の特性との語呂合わせに過ぎず、本文との整合性はない。また、2 月 4 日付の中日新聞は、中国山東省で孔子像がデザインされ擦ると当落がわかる籤が発行され、一等は「礼はこれを用ふるを貴しと為す」の孔子の言葉が現れ、識者や市民から「儒教精神を冒瀆するものだ」、中国紙の新京報は「孔子を儒教の聖人から、賭博の聖人に変えてしまった」と批判しているが、発行元の担当者は、「儒教文化の宣伝にもなっており、一挙両得だ」と胸を張る、との囲み記事を載せる。2 千年も経つと聖人の言葉が、兵器に刻印されたり、籤に印刷されたりでその教えが希薄化するの、洋の東西を問わず同じらしい。】

Z o o m ・ ハチとキリギリス

キリギリスの国は、アリの国やハチの国などからお金を借りて贅沢な生活をしていました。ある日、キリギリスの国が怪しげな債権を切り刻んで丸めて売った商品の値が一斉に下がり、ほかの虫の国まで迷惑をかけました。その日からキリギリスの国の信用はなくなり、お金を貸す国はありませんでしたが、アリとハチの国は相変わらず貸し続けました。それから 3 年後、アリの国は借金が膨らみ過ぎたのでやめました。ハチの国は作ったものをキリギリスの国に売りながら、まだお金を貸していました。10 年後ハチの国は、キリギリスの国にお金を返せと言いました。いきなりなので「ない」との返事にハチの国は、「では 49 番目の地、『氷の半島』と交換しよう」と提案しました、とさ。